

# 9 月例会「夕陽のあと」

9 月 12 日 (火) ①PM1:50~、②PM4:10~、③PM6:30~ (2 時間 13 分)

今年の夏はいつになく暑い日々が続いていますが、みなさんお元気ですか。昼も夜もエアコンが入りっぱなしは初めてです。熱い!!

先日、三上智恵監督の最新作(2024年春完成予定)『沖縄、再び戦場へ(仮)』の製作途中の作品(45分)を見ました。2013年の『標的の村』、2015年の『戦場ぬ止み』、2017年『標的の島 風かたか』、2018年『沖縄スパイ戦史』と沖縄が戦争に利用され、県民が苦しむ続ける歴史を撮り続けてきた三上監督が、新しい作品を作っています。ズルズルと戦争への道に引きずり込まれていく沖縄各島々の苦悩と現状を知ってほしいと、今全国各地でスピノフ作品として無料で貸し出ししています。集落から200mの所に弾薬庫が。ミサイルが配備される。戦車が公道を走る。知らなかった沖縄・南西諸島の様子が映されていました。戦後78年、今一度、平和について考えていきましょう。

さて、9月例会は、時間を変更して開催します。間違えないようお越しく下さい。また、午後1時からの設営準備と午後8時45分終了後の片付けお手伝いだけの方募集します。ご協力よろしくお願ひします。

コロナウイルスが5類になり、収束したかのように見えますが、感染者は、増えています。参加にあたっては、「マスク着用」のご協力をお願いします。感染症の流行は、一進一退ですが、映画を楽しむ平凡な日常に近づいてきていると感じます。例会では、熱中症と新型コロナウイルスに気を付けましょう。入館時の手指の消毒、マスク着用 そして水分補給もお忘れなく。

また、新しい会員が増えるよう、映画好きの知り合いに、この会のことを伝え入会を勧めるなど、会の運営に協力をお願いします。(和)

## 例会のお知らせ

■名称/第125回例会「夕陽のあと」

■日時/2023年9月12日(火)

①PM1:50~、②PM4:10~、③PM6:30~

■場所/加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付/入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル/夕陽のあと

■監督/越川道夫

■出演/貫地谷しほり、山田真歩、永井大、川口覚、松原豊和、木内みどり

■データ/2019年、日本、133分

■ジャンル/社会派ヒューマンドラマ

■ストーリー/海辺の美しい景色をもつ漁村を舞台に、7歳の少年の育ての母と生みの母の生き方と想いが描かれたヒューマンドラマ。

鹿児島県長島町。1年前に都会からこの地に一人でやって来た佐藤茜。港の食堂で明るく元気に働く彼女は、今や島の人気者だったが、その過去を知る者は誰もいなかった。一方、島で生まれ育った日野五月は、かつて不妊治療を行ったものの上手くいかず、7年前に児童相談所から赤ん坊の豊和を預かり大切に育ててきた。そして、ようやく生活も安定してきたことから、特別養子縁組の申請を行い、戸籍上でも親になる

日を心待ちにしてきた。ところが手続きが進む中で豊和の出生の秘密が明らかとなり、実の母親が佐藤茜だと知らされる五月だった…。



## 私の映画KAN「大米騒動」

昨年6月の明石シネマクラブの例会で『大(だい)コメ騒動』を見た。「コメを旅にだすなー！」

1918(大正7)年、富山県の貧しい漁師町で起こった米騒動。小さな漁師町で暮らすおかかたちは、家事、育児、それぞれの仕事をしながら、日々の暮らしを守ってきた。漁ができない期間、夫は出稼ぎに行き、その間おかかたちは、倉庫から1俵の米を背負って船へと運ぶ仕事で日銭を稼ぎ、暮らしていた。

しかし、米が高騰し、我慢できなくなったおかかたちは、米の積み出し阻止を実行する。

なぜ、米の値段が高くなったのか。「日本の歴史 大正デモクラシー」という学習漫画を読んでみた。子どもたちに社会科を教えるために昔読んでから、20年ぶりくらいにページを開いた。

第一次世界大戦が長引く中、ロシア革命が起こり、ソビエト政権がうまれました。日本は、この機会に、シベリアへ出兵を宣言し、72,000 人もの軍隊を送りました。米問屋は、「コメはもっと値上がりするぞ」と売るのをしぶり、米の値段はどんどん高くなったのです。約 150 kgの値段は、大正5年 15 円、大正7年 35 円、大正9年 50 円 毎日食べるお米が3倍の値段に！おかかたちは、「コメを旅にだすなー！」と叫んで、米の積み出し阻止をしました。

この事件が新聞社を通じて、全国に知れ渡り、日本各地で米騒動が起きました。それは、労働運動や普通選挙運動、新婦人協会発足へとつながっていきました。こうした先人たちの知恵と努力のおかげで、今の私たちの暮らしが成り立っていたのです。

こうやってみていくと、歴史のつながりがよくわかります。100年前の話なのに、現代とちっとも変わっていない気がします。今も戦争があり、富める者と貧しい者との格差があります。歴史を、今を振り返らせてくれる映画でした。(有)

(この原稿は1年前にいただいていたものです。掲載の機会を調整しているうちに遅れていました。ガソリン価格高騰のご時世でもあり遅ればせながら掲載しました)

## 前回の例会報告

7月13日(木)の7月例会では、1956年、ベルリンの壁建設前の東ドイツで、高校生がちょっとしたことで、国家への反逆行為と扱われ、信念を貫くか、仲間の密告してエリート人生を目指すかなど、自由の少ない社会での若者の葛藤と判断などを描いた『僕たちは希望という名の列車に

乗った』を鑑賞しました。

参加会員85名、ほか明石シネマクラブから15名。

## 明石シネマクラブ例会情報

■名称/第79回例会『ぼけますから、よろしくお願ひします～おかえりお母さん～』(2022年、日本、101分)

■監督・撮影・語り/信友直子

■ジャンル/ドキュメンタリー

■解説/アルツハイマー病を患った母と、彼女を献身的に支える父の老々介護生活をカメラに収め大きな反響を呼んだドキュメンタリー『ぼけますから、よろしくお願ひします』の続編。

95歳から始めた父の家事が日々上達していく一方、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症して入院生活が始まる。父は毎日1時間かけて面会のために足を運び、母を励まし続けるが、やがて新型コロナの感染が拡大し、病院の面会すら困難な状況が訪れてしまう。

■日時/10月18日(水)

①AM10:30、②PM2:00—  
③PM4:30—、④PM7:00—

■場所/アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、

映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

## ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。



加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL [cinemaclub@nifty.com](mailto:cinemaclub@nifty.com)

<http://kagogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 119 人(7月13日現在)